

[報告] 第39回歴史地震研究会参加記

徳島大学大学院 創成科学研究科理工学専攻* 南 怜奈

Impression Report of 39th General Meeting in Takatsuki city, Osaka

Rena MINAMI

Tokushima University, 2-1, Minamijosanjima-cho, Tokushima-city,
Tokushima, 770-8506 Japan

§ 1. はじめに

第39回歴史地震研究会は2022年9月17日(土), 18日(日)の2日間にわたって開催されました。今年は大阪府の高槻市での開催となり, 関西大学高槻ミューズキャンパスにて行われました。残念ながら新型コロナウイルス感染症の拡大により, 懇親会は中止でした。私は昨年から大会に参加しており, 今回で2回目の参加であったが, 昨年はオンライン形式での開催であったため, 対面形式では初めての参加でした。本大会では口頭発表のみが行われ, 34件の発表があり, 私も口頭発表をさせていただきました。多様な分野からの発表があり, 多くの学びを得ることができる機会でした。本稿では研究発表会での模様について報告します。

§ 2. 研究会1日目(研究発表会・総会)

1日目は「江戸時代以前の地震」, 「南海トラフの地震・津波」の2セッションが行われました。各セッションの最後には総合討論の時間が設けられており, 毎回活発な議論が行われました。平井氏は, 昨年のポスター発表の内容に続き, その2という題で発表されました。昨年の発表で私は史料について質問させていただいており, 記憶に残っている発表であったため, 興味深い内容でした。発表では本願寺に寄せられた文書のやり取りを現代の SNS のような形式で紹介されており, とても楽しく聴かせていただきました。

私は昨年度から地震学の研究室に所属しており, 歴史地震における火災についての研究に取り組んでいます。本大会ではこれまでの研究結果について発表をさせていただきました。対面形式での学会は経験したことがなかったため, 発表後に様々な質問や情報を頂き, とても有意義な時間でした。また, 今後

さらに深く研究を進めていかなければならないと感じました。

§ 3. 研究会2日目(研究発表会)

2日目は「江戸時代の火山噴火と地震」, 「近代の地震」, 「地震一般」の3セッションが行われました。上村氏の発表では, 地名と歴史地震の津波被害との関連があるという報告から, 愛媛県において地元の方に郵送調査を行い, 考察したという内容でした。私は今まで地名と過去の災害の関係性については考えたことがなかったため, 過去の津波被害によって地名がつけられた可能性があるということにとっても驚きました。地名と被害の関連性の提示は防災において有効であると考えられ, 大変重要な研究だと感じました。

§ 4. おわりに

本大会での様々な発表を通して, 様々な知見を得ることができました。また自身の発表に対していただいた質問やご意見は, 今後の研究を深めるために生かしていきたいと考えています。

また3年ぶりの対面形式での開催となり, 台風という悪天候に見舞われながらも, 歴史地震研究会高槻大会の場を企画・運営していただいた皆様には心より感謝申し上げます。

来年の歴史地震研究会は神奈川県小田原市で開催予定です。来年も今大会と同様に対面形式で, 活発な議論が行われるとよいと思います。さらに今回は中止となった懇親会にも参加してみたいです。

* 〒770-8506 徳島市南常三島町2丁目1番地
電子メール: c612231022@tokushima-u.ac.jp